

# カタカナ語を含む文に抵抗や違和感を感じる条件

大橋直希 23B40332  
東京工業大学生命理工学院

## 1. はじめに

どのような条件でカタカナ語を含む文に抵抗を感じるかについて考えるために、「抵抗を感じるかどうか」が文中のカタカナ語自体の抵抗感に大きく依存するか、「抵抗を感じるかどうか」が文中のカタカナ語の割合に大きく依存するかについて調査する。

## 2. 方法

東工大生およびその友人89人にオンラインでのアンケート調査に協力してもらった。内容はいくつかの文章を提示して、違和感や抵抗感を感じずに受け入れることのできた文を選んでもらうものである。文は以下の通りである。

(I) ある文の単語1つを抵抗感が大きいカタカナ語((1)オピニオン、(2)アグリー)で置き換えた文  
(II) 抵抗感が小さいカタカナ語でほとんど構成された文

(III) ある文の単語を抵抗感が中くらいのいくつかのカタカナ語((1)サステナブル、(2)クリエイティブ、(3)プロジェクト)で置き換えた文  
ただし、単語への抵抗感の大きさは日本語への置き換えやすさと主観による判断である。

## 3. 結果

表1: 各文に抵抗を感じない人の割合

文	置き換えた単語	抵抗を感じない人の割合(%)
(I)	(1)	50.6
	(2)	22.5
(II)		46.1
(III)	(3)	88.8
	(1)	59.6
	(2)(3)	64.0
	(1)(3)	57.3
	(1)(2)(3)	53.9

約8割の人がアグリーを含む文に抵抗感を抱いた。また、約半数の人が文(II)に抵抗感を抱いた。(III)より、カタカナ語の割合が増加すると抵抗を感じる人は増加するが、置き換えたカタカナ語によって増加量は大きく異なる。

## 4. 考察

(I)の結果から、抵抗感をもった単語が1つでも含まれているとその文全体に抵抗を感じると考えられる。(III)について、結果より抵抗を感じにくいと思われるカタカナ語(3)を増やしたときに、抵抗を感じない人の割合が2.3%しか減少しなかったこと、逆に抵抗を感じやすいと思われるカタカナ語(1)(2)を増やしたときに、抵抗を感じない人の割合がそれよりも減少していることから、カタカナ語の割合が増加したときに抵抗感を感じやすくなるのは、文中のカタカナ語の割合が増加したこと自体よりも、置き換えられたカタカナ語自体への抵抗感があるからといえる。(ii)について、カタカナ語の多さ以外に抵抗感を感じてしまったことも考えられるが、少なくとも46.1%の人が違和感なくこの文を受け入れることができたことは確かであり、これは(I)(2)のアグリーを含んだ文を受け入れることができた人よりも多いので、(III)の結果もこの結論に矛盾はしてないといえる。海上(2005)の調査によると、日本語のみの文章よりカタカナ語を使用した文章のほうが印象評定は高い。このことから、カタカナ語の割合が多い文であっても、無理にカタカナ語を使用しないようにすれば、かえって抵抗感を持たれやすくなるといえる。これを踏まえれば、確かにカタカナ語を含む文の抵抗感について考えるときはその割合より単語自体の抵抗感のほうが重要といえる。しかし、今回の調査では、使う単語や文がかなり限られており、また、(II)の結果を踏まえても割合が大きく影響する可能性があることは否定できない。

## 5. おわりに

カタカナ語を含む文に抵抗を感じる条件を考えるために、カタカナ語を用いたそれぞれ文に抵抗を感じるかアンケート調査をしたところ、抵抗感を感じるかどうかは文中のカタカナ語自体の抵抗感に大きく依存し、文中のカタカナ語の割合には大きくは依存しない可能性が高いことが判明した。

文献:

海上 智昭(2005). カタカナ語の使用がもたらす印象評定への影響に関する一研究.

<https://doi.org/10.14875/cogpsy.2005.0.075.0>